

(様式第 10)

宮大医医第 66 号  
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人宮崎大学長  
鮫島 浩

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話( 0985 ) 85 - 1510
--------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑩リウマチ科	
診療実績			
・脳神経内科で神経内科の診療を実施 ・感染症内科でアレルギー科の診療を実施			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 5血管外科	②消化器外科 ⑥心臓血管外科
③乳腺外科 ⑦内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科	②矯正歯科	③口腔外科
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4 形成外科	5 脳神経内科
6 糖尿病内科				

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	338 人	108 人	394.9 人	看 護 補 助 者	112 人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	15 人	2 人	16.0 人	理 学 療 法 士	16 人	52 人	52 人
薬 剤 師	47 人	0 人	47.0 人	作 業 療 法 士	6 人	人	人
保 健 師	1 人	0 人	1.0 人	視 能 訓 練 士	9 人	人	人
助 産 師	21 人	5 人	24.6 人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	573 人	44 人	606.8 人	臨 床 工 学 士	16 人	医療社会事業従事者	7 人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	61 人
歯 科 衛 生 士	8 人	0 人	8.0 人	歯 科 技 工 士	1 人	事 務 職 員	127 人
管 理 栄 養 士	9 人	0 人	9.0 人	診 療 放 射 線 技 師	31 人	その 他 の 職 員	24 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	51 人	眼 科 専 門 医	15 人
外 科 専 門 医	30 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放 射 線 科 専 門 医	11 人
小 児 科 専 門 医	23 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10 人
皮 膚 科 専 門 医	9 人	整 形 外 科 専 門 医	24 人
泌 尿 器 科 専 門 医	9 人	麻 酔 科 専 門 医	24 人
産 婦 人 科 専 門 医	18 人	救 急 科 専 門 医	13 人
		合 計	254 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (帖佐 悦男) 任命年月日 令和3年10月1日

平成17年10月1日～現在 (医療安全管理委員会委員)

平成19年4月1日～平成21年10月1日 (医療安全管理部長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	454.5人	10.3人	464.8人
1日当たり平均外来患者数	951.3人	96.3人	1047.6人
1日当たり平均調剤数	2509 剤		
必要医師数	104.3人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	32人		
必要(准)看護師数	269人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	414.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名		薬剤部管理指導室			
化学検査室	334 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR、c16000、)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置(i2000SR、cobas8000、TBA-FX8、e411)			
細菌検査室	87.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	181.1m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、パラフィン包埋作製装置、遠心分離機、マイクローム、ドラフト装置、セーフティキャビネット、セーフティラック、恒温器、伸展器、温浴器、純水製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置			
病理解剖室	52.5m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気ボックス、セーフティラック、解剖用骨切断鋸装置、パソコン、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚			
研究室	2650m <sup>2</sup>		(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか			
講義室	553 m <sup>2</sup>		室数	2 室	収容定員	475人
図書室	1908 m <sup>2</sup>		室数	6 室	蔵書数	124,648冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	96.0%	逆紹介率	92.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,779人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,459人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,065人		
	D: 初診の患者の数	10,259人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院安全管理部部長	○	医療安全管理識見者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所 弁護士		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体就労支援アストモス代表		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本院のHP	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	144人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			

医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 新生児脳低温療法(BHT)は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。生後6時間以内に治療を開始し、目標深部温度34℃まで冷却する。指標は、食道温や直腸温を用いる。BHT施行中は、各種モニタリングを行い、体温管理と同時に呼吸循環、血液凝固、電解質、感染、痙攣などに注意する。冷却時間は72時間で復温を開始する。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症(PPHN)は、出生とともに胎児循環から新生児循環に変換する過程で、低酸素症により肺血管が攣縮し、肺動脈圧が体血圧を上回ることにより発生する。一酸化窒素(NO)吸入療法により肺高血圧症の改善が期待される。			
医療技術名	ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)陽性膠原病リウマチ性疾患専門外来	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 HTLV-1感染症のある膠原病リウマチ性疾患患者の診療。			
医療技術名	重症熱性血小板減少症(SFTS)ウイルス感染症早期診断検査試薬の改良・開発研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 致死的ウイルス感染症であるSFTSの早期診断試薬の改良及び開発を進めている。			
医療技術名	アドレノメジュリンを用いたCOVID-19による機械換気を要する肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎重症患者におけるアドレノメジュリンの重症化予防、有用性の検討			
医療技術名	アドレノメジュリンを用いたCOVID-19による中等症肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎中等症患者におけるアドレノメジュリンの重症化予防、有用性の検討			
医療技術名	アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究(LC-SCRUM-Asia)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 IV期または術後再発の特定の遺伝子異常を持つ非小細胞肺癌に対し、分子標的薬が非常に有効であり、長期的な予後延長を見込める(最も一般的な遺伝子変異EGFRの分子標的薬で18.9か月の延命効果あり)。多くの肺癌症例でスクリーニングをかけて、治療法が判明していない稀な遺伝子異常を検出し、新薬治療の治験を進めていく必要がある。がんセンター東病院を基幹施設とし、肺癌の遺伝子検査を行う研究である。			
医療技術名	Nested PCRによる細菌または真菌に起因する難治性の眼感染症に対する迅速診断	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要 難治性眼感染症の起炎菌を、nested PCRの手法を用いて検索する。			
医療技術名	DVC1-0401網膜下投与による網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の第I/IIa相医師主導治験	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 網膜色素変性に対し遺伝子治療薬DVC1-0401を網膜下に注入し、神経栄養因子hPEDFを過剰発現させ、安全性および視機能障害の進行を評価する効果を検討する医師主導治験。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	2	56 下垂体前葉機能低下症	111
2 筋萎縮性側索硬化症	9	57 先天性副腎皮質酵素欠損症	4
3 脊髄性筋萎縮症	6	58 先天性副腎低形成症	1
4 パーキンソン病	78	59 アジソン病	3
5 大脳皮質基底核変性症	1	60 サルコイドーシス	68
6 ハンチントン病	2	61 特発性間質性肺炎	28
7 シャルコー・マリー・トウス病	1	62 肺動脈性肺高血圧症	16
8 重症筋無力症	61	63 慢性血栓栓性肺高血圧症	11
9 多発性硬化症/視神経脊髄炎	35	64 リンパ脈管筋腫症	3
10 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	65 網膜色素変性症	17
11 封入体筋炎	3	66 バッド・キアリ症候群	2
12 クロウ・深瀬症候群	1	67 原発性胆汁性肝硬変	25
13 多系統萎縮症	10	68 原発性硬化性胆管炎	2
14 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	18	69 自己免疫性肝炎	16
15 ライソゾーム病	10	70 クローン病	218
16 副腎白質ジストロフィー	1	71 潰瘍性大腸炎	270
17 ミトコンドリア病	2	72 好酸球性消化管疾患	4
18 もやもや病	15	73 ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
19 HTLV-1関連脊髄症	7	74 非典型型溶血性尿毒症症候群	1
20 全身性アミロイドーシス	10	75 筋ジストロフィー	3
21 神経線維腫症	22	76 脊髄空洞症	1
22 天疱瘡	14	77 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
23 表皮水疱症	1	78 先天性無痛無汗症	1
24 膿疱性乾癬(汎発型)	16	79 アレキサンダー病	1
25 高安動脈炎	10	80 レノックス・ガストー症候群	2
26 結節性多発動脈炎	7	81 スタージ・ウェーバー症候群	1
27 顕微鏡的多発血管炎	25	82 結節性硬化症	4
28 多発血管炎性肉芽腫症	7	83 色素性乾皮症	2
29 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	84 先天性魚鱗癬	1
30 バージャー病	2	85 家族性良性慢性天疱瘡	1
31 全身性エリテマトーデス	155	86 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
32 皮膚筋炎/多発性筋炎	85	87 特発性後天性全身性無汗症	3
33 全身性強皮症	70	88 弾性線維性仮性黄色腫	2
34 混合性結合組織病	32	89 マルフアン症候群	3
35 シェーグレン症候群	38	90 エーラス・ダンロス症候群	3
36 成人スチル病	11	91 ウィルソン病	3
37 再発性多発軟骨炎	4	92 ウィリアムズ症候群	1
38 ベーチェット病	56	93 ソース症候群	1
39 特発性拡張型心筋症	27	94 総動脈幹遺残症	1
40 肥大型心筋症	20	95 修正大血管転位症	1
41 再生不良性貧血	10	96 完全大血管転位症	2
42 自己免疫性溶血性貧血	2	97 単心室症	3
43 発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	98 三尖弁閉鎖症	1
44 特発性血小板減少性紫斑病	12	99 ファロー四徴症	4
45 原発性免疫不全症候群	11	100 両大血管右室起始症	1
46 IgA腎症	24	101 アルポート症候群	1
47 多発性嚢胞腎	13	102 一次性ネフローゼ症候群	25
48 黄色靱帯骨化症	17	103 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
49 後縦靱帯骨化症	77	104 紫斑病性腎炎	2
50 広範脊柱管狭窄症	3	105 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
51 特発性大腿骨頭壊死症	66	106 オスラー病	1
52 下垂体性ADH分泌異常症	20	107 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
53 下垂体性PRL分泌亢進症	29	108 イソ吉草酸血症	1
54 クッシング病	5	109 ポルフィリン症	1
55 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22	110 肝型糖原病	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	システロール血症	2	161		
112	脳腫黄色腫症	1	162		
113	家族性地中海熱	3	163		
114	強直性脊椎炎	9	164		
115	骨形成不全症	2	165		
116	軟骨無形成症	1	166		
117	後天性赤芽球癆	1	167		
118	遺伝性膝炎	1	168		
119	IgG4関連疾患	5	169		
120	黄斑ジストロフィー	1	170		
121	レーベル遺伝性視神経症	1	171		
122	好酸球性副鼻腔炎	26	172		
123	大理石骨病	1	173		
124	特発性多中心性キャスルマン病	1	174		
125	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1	175		
126			176		
127			177		
128			178		
129			179		
130			180		
131			181		
132			182		
133			183		
134			184		
135			185		
136			186		
137			187		
138			188		
139			189		
140			190		
141			191		
142			192		
143			193		
144			194		
145			195		
146			196		
147			197		
148			198		
149			199		
150			200		
151			201		
152			202		
153			203		
154			204		
155			205		
156			206		
157			207		
158			208		
159			209		
160			210		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 感染防止対策加算の注3に規定する抗菌薬適正使用支援加算
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 患者サポート体制充実加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 特定機能病院入院基本料 精神病院(13対1)	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 特定機能病院入院基本料の注4に規定する重度認知症加算	・ 後発医薬品使用体制加算1
・ 救急医療管理加算	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 診療録管理体制加算1	・ データ提出加算2
・ 医師事務作業補助体制加算1 (15対1)	・ 入退院支援加算1
・ 急性期看護補助体制加算 (25対1)(看護補助者5割以上)	・ 入退院支援加算の注7に規定する入院時支援加算
・ 急性期看護補助体制加算の注2に規定する夜間100対1急性期看護補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算の注3に規定する夜間夜間看護体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算 (12対1配置加算1)	・ 精神科急性期医師配置加算2
・ 看護補助加算2	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 療養環境加算	・ 救命救急入院料1
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 救命救急入院料の注3に規定する救急体制充実加算1
・ 無菌治療室管理加算1	・ 救命救急入院料の注6に規定する小児加算
・ 無菌治療室管理加算2	・ 特定集中治療室管理料2
・ 緩和ケア診療加算	・ 特定集中治療室管理料の注2に規定する小児加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 特定集中治療室管理料の注4に規定する早期離床・リハビリテーション加算
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料 (新生児集中治療室管理料)
・ 栄養サポートチーム加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 医療安全対策加算1	・ 小児入院医療管理料2
・ 感染防止対策加算1	・ 小児入院医療管理料の注2に規定するプレイルーム加算
・ 感染防止対策加算の注2に規定する感染防止対策地域連携加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料イ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん患者指導管理料ロ	・ 遺伝学的検査
・ がん患者指導管理料ハ	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ がん患者指導管理料ニ	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 先天性代謝異常症検査
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 院内トリアージ実施料	・ 国際標準検査管理加算
・ 外来放射線照射診療料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・ 胎児心エコー法
・ がん治療連携計画策定料	・ ヘッドアップティルト試験
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 薬剤管理指導料	・ 単線維筋電図
・ 医療機器安全管理料1	・ 神経学的検査
・ 医療機器安全管理料2	・ 補聴器適合検査
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 黄斑局所網膜電図
・ 精神科退院時共同指導料1	・ 全視野精密網膜電図
・ 精神科退院時共同指導料2	・ ロービジョン検査判断料
・ 歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ 内服・点滴誘発試験

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ CAD/CAM冠
・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・ 歯科技工加算1及び2
・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・ センチネルリンパ節加算
・ ポジトロン断層撮影	・ 皮膚移植術(死体)
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・ 外来化学療法加算1	・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ 無菌製剤処理料	・ 椎間板内酵素注入療法
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・ 心大血管疾患リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ 運動器リハビリテーション料(I)	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 運動器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ 呼吸器リハビリテーション料(I)	・ 網膜再建術
・ 呼吸器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・ 人工中耳植込術
・ がん患者リハビリテーション料	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 医療保護入院等診療料	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 硬膜外自家血注入	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 人工腎臓の注2に規定する導入期加算2	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 手術用顕微鏡加算	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 口腔粘膜処置	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 経カテーテル大動脈弁置換術	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 経皮的中心隔心筋焼灼術	・ 腹腔鏡下仙骨陰固定術
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・ 胎児輸血術
・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・ 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)	・ 輸血管理料 I
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・ コーディネート体制充実加算
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・ 自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 体外衝撃波胆石破砕術	・ 手術時歯根面レーザー応用加算
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 体外衝撃波砕石破砕術	・ 歯根端切除手術の注3
・ 腹腔鏡下痔腫瘍摘出術	・ レーザー機器加算
・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・ 麻酔管理料(I)
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 麻酔管理料(II)
・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 放射線治療専任加算
・ 生体腎移植術	・ 外来放射線治療加算
・ 膀胱水圧拡張術	・ 高エネルギー放射線治療







## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳梗塞急性期のアドレノメデュリン静注療法の確立	北村 和雄	循環器内科	8,710,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19による中等症肺炎の治療薬開発-Phase II a試験	北村 和雄	循環器内科	325,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19による機械換気を要する重症肺炎の治療薬開発-Phase IIa試験	北村 和雄	循環器内科	170,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19関連重症肺炎治療薬の開発(治験薬製造法の検討)	北村 和雄	循環器内科	13,260,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規アドレノメデュリン誘導体を循環器疾患治療薬として開発するための基礎研究	北村 和雄	循環器内科	5,070,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
大動脈瘤化の分子機序の解明	鶴田 敏博	循環器内科	1,560,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
循環器疾患の臓器障害におけるビッグアンジオテンシン-25の役割と生成機構の解明	永田 さやか	循環器内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
末梢血単球の糖代謝モニタリングを用いた糖尿病性動脈硬化進展予防スキームの構築	松浦 祐之介	循環器内科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
国際展開をふまえた新規バイオマーカーを用いたスコア法によるIgA腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み	藤元 昭一	腎臓内科	127,483	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	藤元 昭一	腎臓内科	176,974	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝硬変、NASH発症・進展に果たす造血細胞の関与の解明と新たな治療標的の確立	大園 芳範	肝臓内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	永田 賢治	肝臓内科	400,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
遺伝子異常の全貌とクローン構造の理解に基づくATL個別化診療の確立	下田 和哉	血液内科	24,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シングルセル免疫動態解析によるHTLV-1感染状態・関連疾患における宿主-病原体相互作用の統合的理解	下田 和哉	血液内科	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性リンパ腫に対するMALT1阻害剤の開発	下田 和哉	血液内科	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
CALR変異幹細胞の増幅機構及び変異体の機能モチーフを標的とした骨髄線維症の制御	幣 光太郎	血液内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
骨髄増殖性腫瘍におけるエピゲノム異常の役割	上運天 綾子	血液内科	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
小胞体ストレス応答と、腫瘍由来fibrocyteに着目する骨髄増殖性腫瘍研究	下田 和哉	血液内科	7,410,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
マウスモデルによるATLL腫瘍形成メカニズムの解明と腫瘍幹細胞プロファイルの同定	亀田 拓郎	血液内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
IFN $\alpha$ シグナル伝達および腎病変の形成機構に着目した骨髄増殖性腫瘍の病態制御	田平 優貴	血液内科	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
高濃度から中・低濃度砒素曝露による慢性砒素中毒症の神経障害に関する国際比較研究	望月 仁志	脳神経内科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
遺伝子発現制御法を用いた多発性硬化症の成因解明	中里 祐毅	脳神経内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
超高感度尿中シェディング産物網羅的解析を応用した早期肺癌診断マーカーの探索研究	松元 信弘	呼吸器内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
上皮内因子が指揮する組織幹細胞ニッチ機構を焦点とした喫煙関連肺疾患の病態解明	柳 重久	呼吸器内科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
交感神経の過活動の制御を焦点とするARDSおよび肺癌への新たな治療戦略の検討	坪内 拓伸	呼吸器内科	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	21,283,286	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺発生時の二種類の上皮前駆細胞を制御する細胞ダイナミクスと細胞老化機構の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	200,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)

HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の診療ガイドラインに資する統合的レジストリーの構築によるエビデンスの創出	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,820,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
経時的感染者検体の多角的・高精細研究アプローチによるHTLV病原性発現機序解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
HTLV-1陽性関節リウマチの炎症病態におけるIFNシグネチャーの解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	350,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
個別化薬物療法最適化の基盤となる薬物代謝酵素活性を評価する核医学画像診断法の確立	石田 康	精神科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
急性および慢性の痒みに対するペランパネルの効果	治田 彩香	精神科	1,040,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
市町村単位で介入可能な自殺予防要因の探求	香田 将英	精神科	1,040,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究	香田 将英	精神科	253,500	補	科学研究費助成金(文部科学省)
熊本地震で被災した子どものPTSD症状と発達障がい特性との関連についての研究	大平 洋明	精神科	2,860,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
光遺伝学を用いた慢性の痒み成立機序へのヘモキニン-1の関与についての研究	船橋 英樹	精神科	3,120,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
慢性肉芽腫性肺炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究	盛武 浩	小児科	390,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
CDC42阻害剤による武内・小崎症候群の治療法の開発	盛武 浩	小児科	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児骨髄系腫瘍(de novo AML)に対する標準的治療法の確立	盛武 浩	小児科	260,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規神経変性疾患TBCD異常症の解明	池田 俊郎	小児科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
移植関連血栓性微小血管障害における補体関連遺伝子の変異解析	山田 愛	小児科	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
末梢血を用いたミトコンドリア病の迅速診断法の確立	宇藤山 麻衣子	小児科	780,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
小児急性リンパ性白血病発症にかかわる遺伝学的背景の検討	盛武 浩	小児科	300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
FAK阻害薬の骨原発悪性腫瘍への早期臨床応用実現を目標とした転移抑制機構の解明	盛武 浩	小児科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
小児難治性白血病のエネルギー代謝解析	木下 真理子	小児科	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
全身型若年性特発性関節炎難治例におけるCRIPAK遺伝子変異解析	西村 豊樹	小児科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
胆管癌の局所制御増強と光線過敏軽減による普及を目指した次世代光線力学的療法の開発	七島 篤	肝胆膵外科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
消化器癌における褐色脂肪組織発現とCachexiaの関連検討	西田 卓弘	消化管・内分泌・小児外科	520,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
母親由来キメラ細胞の定量的解析による胆道閉鎖症の病因究明と予後予測研究	榎屋 隆太	消化管・内分泌・小児外科	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
食道癌に対する光線力学的療法による薬剤耐性軽減効果の証明と新規治療開発に向けた検証	甲斐 健吾	消化管・内分泌・小児外科	2,080,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
間質性肺炎合併肺癌術後の新規治療戦略の構築	前田 亮	呼吸器・乳腺外科	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	綾部 貴典	呼吸器・乳腺外科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
KPC confettiマウスがもたらす腫瘍微小環境制御の新たな理解	富永 洋平	呼吸器・乳腺外科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
ロコモティブシンドロームの評価法の開発	帖佐 悦男	整形外科	2,000,000	委	小林市立病院
骨・軟骨代謝制御に関与する新規遺伝子群の網羅的機能解析	永井 琢哉	整形外科	910,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究	帖佐 悦男	整形外科	1,560,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)

エビデンスに基づいたロコモティブシンドロームの対策における簡便な確認・介入方法の確立と普及啓発体制の構築に資する研究	帖佐 悦男	整形外科	5,175,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
ヒト化マウスの泌尿器癌モデルを用いた膜結合型タンパクの機能解析と新規治療法の確立	向井 尚一郎	泌尿器科	1,040,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
自然発症腎形成不全マウスを用いた腎尿路発生の遺伝学的機序の解明	賀本 敏行	泌尿器科	1,560,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
新規ゼノグラフトモデルを用いた前立腺癌治療効果予測マーカーの開発	藤井 将人	泌尿器科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
前立腺癌におけるHumanized HGF SCIDマウスを用いた新規治療の開発	寺田 直樹	泌尿器科	1,170,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の医師主導治験	池田 康博	眼科	54,469,148	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自然炎症局所制御による網膜前駆細胞誘導	池田 康博	眼科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
網膜色素変性を自然発症するカニクイザルの病態解明と繁殖に向けた準備	池田 康博	眼科	1,560,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
緑内障評価のための電気生理学的手法に基づくPhNRの研究	日高 貴子	眼科	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
MFTを用いた内耳奇形スクリーニング法の確立	中村 雄	耳鼻いんこう・頭頸部外科	780,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
核酸クロマトグラフィーを用いた沖繩版ペンドレッド症候群迅速遺伝子診断法の確立	我那覇 章	耳鼻いんこう・頭頸部外科	2,080,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻いんこう・頭頸部外科	500,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
周産期脳障害に対するマグネシウムのプレコンディショニング効果に関する基礎的研究	鮫島 浩	産科・婦人科	2,080,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
分子結合技術を用いた造影剤による革新的がんCT画像化技術の開発	水谷 陽一	放射線科	1,560,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
電子密度画像と神経膠腫の細胞密度の相関性の検討	東 美菜子	放射線科	910,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	東 美菜子	放射線科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
神経障害性疼痛への間欠的高周波照射とトラマドールの併用療法の有効性及び機序の検討	日高 康太郎	麻酔科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
麻酔薬および血管収縮薬投与時の末梢静脈径の変化に関する研究	恒吉 勇男	麻酔科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
敗血症における血管リモデリングを標的とした新規治療薬の検討	矢野 武志	麻酔科	1,820,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
メチル化アレイ法によるグリオーマ上皮間葉転換メカニズムの解明	竹島 秀雄	脳神経外科	5,870,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
神経膠芽腫において代謝経路再編成が細胞増殖や治療抵抗性に与える機序の解明	渡邊 孝	脳神経外科	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
小児がんサバイバーの口腔およびコミュニケーション機能発達支援プログラムの構築	温水 佳世子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
小児慢性特定疾患児の口腔疾患と口腔・腸内細菌叢・慢性疾患との関連を解明する	永田 順子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
アポトーシス標的のアイソープ治療による動脈硬化不安定プラーク制御法の開発	浅田 祐士郎	病理診断科	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
産科危機的出血をきたす癒着胎盤におけるプロテアーゼ活性化受容体の局在と機能	阿萬 紫	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
がん組織におけるHGF-METシグナル活性化機構の解明と、その阻害療法の開発	木脇 拓道	病理診断科	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌の発がんにおけるセリンプロテアーゼ活性化制御の意義に関する研究	山本 晃士	病理診断科	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
明らかな骨量減少をきたすTmpr1遺伝子トランプマウスの機能解析	山口 洋一郎	救命救急センター	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
筋骨格系脆弱化におけるHMGB2に基づく間葉系細胞の分化制御機構	李 徳哲	救命救急センター	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
IFALDの病態解明に基づく大建中湯を用いた新規治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
壊死性腸炎根絶を目指したアドレノメデュリンによる革新的予防・治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	1,690,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)

行動解析に基づく中心静脈カテーテル挿入手技の標準化に向けたトレーニングの開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
オプトジェネティクスを用いた光による痛み制御~実験動物の開発と疼痛機序の解明~	丸田 豊明	手術部	1,430,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
人工知能技術の医療経営分析への応用プロセスを記録できる診療概念辞書の構築	荒木 賢二	病院IR部	1,040,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
介護ライフログ解析による介護行為の改善・高度化支援に関する研究	山崎 友義	病院IR部	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
複数項目の値の変動に依存し動的に出現が変化する項目の予測の実現と評価	荒木 賢二	病院IR部	520,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
精神疾患患者に対する運動療法の効果と地域移行へ向けた有効性の検討	荒川 英樹	リハビリテーション部	2,080,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
レジリエンス・エン지니어リング理論の手術安全支援システムへの実用化研究と教材開発	綾部 貴典	医療安全管理部	1,300,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
医療安全管理業務と連携した「臨床倫理サポート」体制の病院内モデル構築	板井 孝一郎	臨床倫理部	520,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
がん微小環境による抗がん薬耐性機序解明と新規分子標的薬の開発	池田 龍二	薬剤部	650,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
遺伝子増幅減少機構の解明によるがん治療の創薬基盤の構築	南 謙太郎	薬剤部	1,525,390	補	科学研究費助成金(文部科学省)
増幅遺伝子のコピー数の制御機構の解明	南 謙太郎	薬剤部	130,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
免疫学的定量法を基盤とした脳脊髄液中メトトレキサート濃度測定環境の構築	横田 翼	薬剤部	480,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)
免疫抑制薬の新規薬物動態制御理論に基づくリバーサートランスレーショナルリサーチ	吉川 直樹	薬剤部	1,950,000	補	科学研究費助成金(文部科学省)

計103

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に

行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Goro Miki, Nobuko Kuroishi, Mariko Tokashiki,et al.	循環器内科	20 kDa PEGylated Adrenomedullin as a New Therapeutic Candidate for Inflammatory Bowel Disease.	Gastrointest.Disord.2020 Oct;2(4):366-377	Original Article
2	Johji Kato.	循環器内科	Natriuretic peptides and neprilysin inhibition in hypertension and hypertensive organ damage.	Peptides.2020 Oct;132:170352	Review
3	Toshihiro Kita, Sinya Ashizuka, Naoki Ohmiya,et al.	循環器内科	Adrenomedullin for steroid-resistant ulcerative colitis: a randomized, double- blind, placebo- controlled phase-2a clinical trial.	J Gastroenterol.2021 Feb;56(2):147-157	Original Article
4	Toshihiro Tsuruda, Naoki Yoshikawa, Motoaki Kai,et al.	循環器内科	The Cytokine Expression in Patients with Cardiac Complication after Immune Checkpoint Inhibitor Therapy.	Intern Med.2021 Feb;60(3):423-429	Case report

5	Yayoi Nishimoto, Sayaka Nagata, Emiko Akashi, et al.	循環器内科	Thrombin rapidly digests adrenomedullin: Synthesis of adrenomedullin analogs resistant to thrombin.	Biochem Biophys Res Commun.2020 Aug;529(3):778-783	Original Article
6	Akihiro Fukuda, Akihiro Minakawa, Masao Kikuchi, et al.	腎臓内科	Urinary podocyte mRNAs precede microalbuminuria as a progression risk marker in human type 2 diabetic nephropathy.	Sci Rep.2020 Oct;10(1):18209	Original Article
7	Hiroko Inagaki, Akatsuki Saito, Hironobu Sugiyama, et al.	腎臓内科	Rapid inactivation of SARS-CoV-2 with deep-UV LED irradiation.	Emerg Microbes Infect.2020 Dec;9(1):1744-1747	Letter
8	Ryuzoh Nishizono, Hiroki Kogou, Yuri Ishizaki, et al.	腎臓内科	Concurrent minimal change nephrotic syndrome and type 1 diabetes mellitus in an adult Japanese woman: a case report.	BMC Nephrol.2020 Sep;21(1):410	Case report
9	Tatsunori Toida, Reiko Toida, Shou Ebihara, et al.	腎臓内科	Association between Serum Zinc Levels and Clinical Index or the Body Composition in Incident Hemodialysis Patients.	Nutrients.2020 Oct;12(10):3187	Original Article

10	Tatsunori Toida, Yuji Sato, Satoshi Ogata, et al.	腎臓内科	Synergic Impact of Body Mass Index, Diabetes, and Age on Long-Term Mortality in Japanese Incident Hemodialysis Patients: A Cohort Study on a Large National Dialysis Registry.	J Ren Nutr.2020 Jul;30(4):333-340	Original Article
11	Yuri Ishizaki, Ryuzoh Nishizono, Yuji Sato, et al.	腎臓内科	Nephrotic syndrome and Giant cell arthritis concurrently occurring after percutaneous transluminal angioplasty for renal artery stenosis.	Clin Nephrol.2020 Jun;93(6):300-305	Case report
12	Yoshinori Ozono, Kotaro Shide, Takuro Kameda, et al.	肝臓内科	Neoplastic fibrocytes play an essential role in bone marrow fibrosis in Jak2V617F-induced primary myelofibrosis mice.	Leukemia.2021 Feb;35(2):454-467	Original Article
13	Kazuya Shimoda, Naoto Takahashi, Keita Kirito, et al.	血液内科	JSH Practical Guidelines for Hematological Malignancies, 2018: I. Leukemia-4. Chronic myeloid leukemia (CML)/myeloproliferative neoplasms (MPN).	Int J Hematol.2020 Sep;112(3):268-291	Review
14	Keiichi Akizuki, Hitoshi Matsuoka, Takanori Toyama, et al.	血液内科	Real-World Data on Clinical Features, Outcomes, and Prognostic Factors in Multiple Myeloma from Miyazaki Prefecture, Japan.	J Clin Med.2020 Dec;10(1):105	Original Article

15	Kotaro Shide, Takuro Kameda, Ayako Kamiunten,et al.	血液内科	Calreticulin haploinsufficiency augments stem cell activity and is required for onset of myeloproliferative neoplasms in mice.	Blood.2020 Jul;136(1):106-118	Original Article
16	Masaaki Sekine, Takuro Kameda, Kotaro Shide,et al.	血液内科	Higher average chemotherapy dose intensity improves prognosis in patients with aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma.	Eur J Haematol.2021 Mar;106(3):398-407	Original Article
17	Nobuyuki Ishii, Yuki Mochizuki, Kazutaka Shiomi,et al.	脳神経内科	Spiral drawing: Quantitative analysis and artificial-intelligence-based diagnosis using a smartphone.	J Neurol Sci.2020 Apr;411:116723	Original Article
18	Nobuyuki Ishii, Katsuya Sakai, Hitoshi Mochizuki,et al.	脳神経内科	Reversible Parkinsonism Due to Diabetic Uremic Syndrome.	Intern Med.2020 Dec;59(24):3251-3252	Case report
19	Yuki Nakazato, Yuki Fujita, Masamitsu Nakazato,et al.	脳神経内科	Neurons promote encephalitogenic CD4 + lymphocyte infiltration in experimental autoimmune encephalomyelitis.	Sci Rep.2020 Apr;10(1):7354	Original Article



20	Ayako Matsuo, Ryota Tanida, Shigehisa Yanagi, et al.	呼吸器内科	Significance of nuclear LOXL2 inhibition in fibroblasts and myofibroblasts in the fibrotic process of acute respiratory distress syndrome.	Eur J Pharmacol.2021 Feb;892:173754	Original Article
21	Takanori Horiguchi, Shigehisa Yanagi, Masaki Tomita, et al.	呼吸器内科	A case of bilateral invasive mucinous adenocarcinoma of the lung with severe productive cough and dyspnea successfully treated with palliative lung lobectomy.	Respir Med Case Rep.2021 Feb (オンライン);32:101368	Case report
22	Takanori Horiguchi, Shigehisa Yanagi, Kazutaka Yatsushiro, et al.	呼吸器内科	A case of impaired consciousness due to large cystic metastatic brain tumors from lung adenocarcinoma successfully controlled with Ommaya reservoir placement.	Respir Med Case Rep.2020 Apr (オンライン);30:101069	Case report
23	Weidong Zhang, T M Zaved Waise, Koji Toshinai, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Functional interaction between Ghrelin and GLP-1 regulates feeding through the vagal afferent system.	Sci Rep.2020 Oct;10(1):18415	Original Article
24	Yudai Uehira, Hideki Yamaguchi, Nobuhiro Matsumoto, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Periodic Blood Pressure Fluctuations in Undiagnosed Pheochromocytoma.	Intern Med.2021 Feb;60(3):491-492	Case report

25	Chihiro Iwao, Kunihiko Umekita, Shunichi Miyauchi, et al.	膠原病感染症内科	Effective Treatment with Tocilizumab in a Rheumatoid Arthritis Patient Complicated with Human T-cell Leukemia Virus Type 1-associated Myelopathy.	Intern Med.2020 Aug;59(15):1891-1897	Case report
26	Kazumi Umeki, Asato Yasuda, Kunihiko Umekita, et al.	膠原病感染症内科	Detection of anti-SFTSV nuclear protein antibody in the acute phase sera of patients using double-antigen ELISA and immunochromatography.	J Virol Methods.2020 Nov;285:113942	Original Article
27	Kunihiko Umekita, Yayoi Hashiba, Kosho Iwao, et al.	膠原病感染症内科	Human T-cell leukemia virus type 1 may invalidate T-SPOT.TB assay results in rheumatoid arthritis patients: A retrospective case-control observational study.	PLoS One.2020 May (オンライン);15(5):e0233159	Original Article
28	Takeshi Kawaguchi, Kunihiko Umekita, Atsushi Yamanaka, et al.	膠原病感染症内科	Impact of C-Reactive Protein Levels on Differentiating of Severe Fever With Thrombocytopenia Syndrome From Japanese Spotted Fever.	Open Forum Infect Dis.2020 Oct;7(11):ofaa473	Original Article
29	Takeshi Kawaguchi, Daisuke Himeji, Kūichio Beppu, et al.	膠原病感染症内科	Snowball-like appearance on radial endobronchial ultrasonography in a patient with invasive mucinous adenocarcinoma.	Respirol Case Rep.2021 Mar (オンライン);9(4):e00735	Case report

30	Yayoi Hashiba, Kunihiko Umekita, Hiroyuki Minami, et al.	膠原病感染症内科	Strongyloides stercoralis colitis in a patient positive for human T-cell leukaemia virus with rheumatoid arthritis during an anti-rheumatic therapy: a case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Jan;5(1):16-21	Case report
31	Mayumi Akaki, Akira Ishihara, Kentaro Nagai, et al.	検査部	Signet Ring Cell Differentiation in Salivary Duct Carcinoma with Rhabdoid Features: Report of Three Cases and Literature Review.	Head Neck Pathol.2021 Mar;15(1):341-351	Case report
32	Sho Suzuki, Hiroshi Kawakami, Tadashi Miike, et al.	消化器内科	Complete Remission of Colon Cancer with Ipilimumab Monotherapy.	Intern Med.2021 Mar;60(6):957-958	Case report
33	Sho Suzuki, Hiroshi Kawakami, Tadashi Miike.	消化器内科	Using Cusco's speculum to endoscopically remove a large colonic endoscopic submucosal dissection specimen.	Dig Endosc.2021 Mar(オンライン);33(3):e28-e30	Others
34	Shojiro Yamamoto, Tadashi Miike, Hiroshi Kawakami.	消化器内科	Diarrhea, Fever, and Polyarthralgia With Colitis.	Am J Gastroenterol.2020 Aug;115(8):1161	Case report

35	Tadashi Miike, Hiroshi Kawakami, Takuro Kameda, et al.	消化器内科	Clinical characteristics of adult T-cell leukemia/lymphoma infiltration in the gastrointestinal tract.	BMC Gastroenterol.2020 Sep;20(1):298	Original Article
36	Ayaka Haruta-Tsukamoto, Yu Miyahara, Hideki Funahashi, et al.	精神科	Perampanel attenuates scratching behavior induced by acute or chronic pruritus in mice.	Biochem Biophys Res Commun.2020 Dec;533(4):1102-1108	Original Article
37	Yu Miyahara, Hideki Funahashi, Rumi Naono-Nakayama, et al.	精神科	Serotonin and noradrenaline modulate chronic itch processing in mice.	Eur J Pharmacol.2020 Sep;883:173319	Original Article
38	Yu Miyahara, Ayaka Haruta-Tsukamoto, Hideki Funahashi, et al.	精神科	Differential onset time of mirtazapine on pruritus and depression in a patient receiving hemodialysis.	SAGE Open Med Case Rep. 2021Jan;9:2050313X20988408	Case report
39	Hiroshi Moritake, Shiro Tanaka, Takako Miyamura, et al.	小児科	The outcomes of relapsed acute myeloid leukemia in children: Results from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group AML-05R study.	Pediatr Blood Cancer.2021 Jan;68(1):e28736	Original Article

40	Takuro Harao, Ai Yamada, Mariko Kinoshita, et al.	小児科	Prevention of cisplatin-induced hearing-loss by sodium thiosulfate in medulloblastoma.	Pediatr Int.2020 Oc(オンライン);62(10):1204-1206	Others
41	Toyoki Nishimura, Ai Yamada, Maiko Utoyama, et al.	小児科	A useful method to diagnose Pearson syndrome mimicking Diamond-Blackfan anemia.	Pediatr Int.2021 Feb(オンライン);63(2):223-225	Others
42	Yusuke Saito, Daisuke Sawa, Mariko Kinoshita, et al.	小児科	EVII triggers metabolic reprogramming associated with leukemogenesis and increases sensitivity to L-asparaginase.	Haematologica.2020 Aug;105(8):2118-2129	Original Article
43	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura, et al.	肝胆膵外科	Validation set analysis to predict postoperative outcomes by technetium-99m galactosyl serum albumin scintigraphy for hepatectomy.	Nucl Med Commun.2020 Apr;41(4):320-326	Original Article
44	Atsushi Nanashima, Kunihiro Tominaga, Akihiro Yonei, et al.	肝胆膵外科	A rare case of intrahepatic cholangiocarcinoma with tumor thrombus in the bile duct.	Clin J Gastroenterol.2021 Feb;14(1):275-282	Case report

45	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Planned limited resection of the extrahepatic bile duct in a case of intraductal papillary neoplasm of the bile duct based on preoperative examinations.	Clin J Gastroenterol.2020 Apr;13(2):233-239	Case report
46	Kengo Kai, Hideki Hidaka, Takeshi Nakamura, et al.	肝胆膵外科	A case of poorly differentiated adenocarcinoma with lymphoid stroma originated in the ascending colon diagnosed as lymphoepithelioma-like carcinoma.	Clin J Gastroenterol.2020 Aug;13(4):538-544	Case report
47	Kengo Kai, Takeomi Hamada, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Diffuse large B-cell lymphoma of the gallbladder arised 8 years after malignant lymphoma of the right testis: A case report and literature review.	Int J Surg Case Rep.2020 Sep (オンライン);76:19-24	Case report
48	Takeomi Hamada, Koichi Yano, Takashi Wada, et al.	肝胆膵外科	Increased Survival Benefit of Adjuvant Intra-arterial Infusion Chemotherapy in HCC Patients with Portal Vein Infiltration after Hepatectomy.	World J Surg.2020 Aug;44(8):2770-2776	Original Article
49	Takeomi Hamada, Hidenobu Ishizaki, Yukihiro Haruyama, et al.	肝胆膵外科	Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio and Intratumoral CD45RO-Positive T Cells as Predictive Factors for Longer Survival of Patients with Colorectal Liver Metastasis after Hepatectomy.	Tohoku J Exp Med.2020 Aug;251(4):303-311	Original Article

50	Kousei Tashiro, Shinsuke Takeno, Fumiaki Kawano, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Endoscopic filling with polyglycolic acid sheets and fibrin glue of persistent fistula after esophagectomy.	Endoscopy.2021 Mar;53(3):288-292	Original Article
51	Shinsuke Takeno, Yukinori Tanoue, Rouko Hamada, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Utility of thoracic cage width in assessing surgical difficulty of minimally invasive esophagectomy in left lateral decubitus position.	Surg Endosc.2020 Aug;34(8):3479-3486	Original Article
52	Shinsuke Takeno, Hiroto Ishii, Atsushi Nanashima, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Aortoesophageal fistula: review of trends in the last decade.	Surg Today.2020 Dec;50(12):1551-1559	Review
53	Kazuhiro Higuchi, Koji Furukawa, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Congenital Abdominal Aortic Aneurysm in a Four Year Old Girl.	EJVES Vasc Forum.2020 May (オンライン);48:12-18	Case report
54	Koji Furukawa, Yukie Shirasaki, Hirohito Ishii, et al.	心臓血管外科	Extended sandwich technique via the right atrial approach for post-infarction posterior ventricular septal rupture.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2020 Jun;68(6):629-632	Case report

55	Koji Furukawa, Mitsuhiro Yano, Hirohito Ishii, et al.	心臓血管外科	Clinical Outcomes of a Customized Mitral Valve Plasty for Functional Mitral Regurgitation with a Low Ejection Fraction and Implications for Preoperative Right Ventricular Function.	Ann Thorac Cardiovasc Surg.2021 Feb;27(1):32-40	Original Article
56	Kousuke Mori, Koji Furukawa, Hirohito Ishii, et al.	心臓血管外科	Successful treatment of left ventricular patch infection by latissimus dorsi muscle flap covering without patch removal.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2021 Jan;69(1):122-125	Case report
57	Masaki Tomita, Ryo Maeda, Takanori Ayabe, et al.	呼吸器・乳腺外科	Prognostic Impact of a Novel Tumor Marker and Inflammation Index for Patients With Non-small-cell Lung Cancer.	Anticancer Res.2020 Jul;40(7):4023-4027	Original Article
58	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Development of a System to Support Surgical Safety-I and Safety-II. Implementation of Resilient Surgical Healthcare for Bleeding Incidents in Thoracic Surgery.	Surgical Science.2020 Dec;11(12):405-427	Original Article
59	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Implementation of Resilience Engineering for Operating Room. Unveiling the Hidden Interactions among Multi-Professionals in a Surgical Team.	Surgical Science.2020 Sep;11(9):242-256	Original Article



60	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Randomized Control Trial on the Efficacy of Dual Bronchodilator of Glycopyrronium/Indacaterol for Lung Cancer Surgery: Improvement of Postoperative Pulmonary Function in Both Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease and Normal Pulmonary Function.	Surgical Science.2020 Jun;11(6):133-165	Original Article
61	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Implementation of Resilience Engineering for Thoracic Surgery. Reconciling Work-as-Imagined and Work-as-Done.	Surgical Science.2020 Sep;11(9):257-273	Original Article
62	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Hiroshi Sugimura, et al.	整形外科	Comparison of symptomatic spondylolysis in young soccer and baseball players.	J Orthop Surg Res.2020 Sep;15(1):378	Original Article
63	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, et al.	整形外科	Orthopaedic medical examination for young amateur athletes: a repeated cross-sectional study from 2014 to 2018.	BMJ Open.2021 Jan (オンライン);11(1):e042188	Original Article
64	Takuya Tajima, Yuji Takazawa, Mutsuo Yamada, et al.	整形外科	Spectator medicine at an international mega sports event: Rugby World Cup 2019 in Japan.	Environ Health Prev Med. 2020 Nov;25(1):72	Original Article

65	Yoichiro Yamaguchi, Deokcheol Lee, Takuya Nagai, et al.	整形外科	Googling Musculoskeletal-Related Pain and Ranking of Medical Associations' Patient Information Pages: Google Ads Keyword Planner Analysis.	J Med Internet Res.2020 Aug;22(8):e18684	Original Article
66	Tamaki Kubo, Hirofumi Eto, Tomohiro Inoue, et al.	皮膚科	Case of accessory scrotum with hamartoma located in sacrococcygeal region: The first report.	J Dermatol.2020 Jun(オンライン);47(6):e248-e249	Case report
67	Naoki Terada, Takashi Mizowaki, Toshihiro Saito, et al.	泌尿器科	Potential effectiveness of local radiotherapy for extending survival and reducing symptomatic local events in patients with de novo metastatic prostate cancer.	BJUI Compass.2020 Nov(オンライン);1(5):165-173	Original Article
68	Shoichiro Mukai, Koji Yamasaki, Masato Fujii, et al.	泌尿器科	Dysregulation of Type II Transmembrane Serine Proteases and Ligand-Dependent Activation of MET in Urological Cancers.	Int J Mol Sci.2020 Apr;21(8):2663	Review
69	Miho Shirane, Akira Ganaha, Takahiro Nakashima, et al.	耳鼻科	Comprehensive hearing care network for early identification and intervention in children with congenital and late-onset/acquired hearing loss: 8 years' experience in Miyazaki.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol.2020 Apr;131:109881	Original Article

70	Noriaki Miyanaga, Hideaki Takagi, Tomofumi Uto, et al.	耳鼻科	Essential role of submandibular lymph node dendritic cells in protective sublingual immunotherapy against murine allergy.	Commun Biol.2020 Dec;3(1):742	Original Article
71	Emi Kino, Masanao Ohhashi, Yasuyuki Kawagoe, et al.	産婦人科	Impact of tocolysis-intent magnesium sulfate and beta-adrenergic agonists on perinatal brain damage in infants born between 28-36 weeks' gestation.	J Obstet Gynaecol Res.2020 Oct (オンライン);46(10):2027-2035	Original Article
72	Junsuke Muraoka, Yuki Kodama, Masanao Ohashi, et al.	産婦人科	Intrapartum fetal heart rate patterns and perinatal outcome in chorioamnionitis at or beyond 34 weeks of gestation.	J Obstet Gynaecol Res.2021 Mar (オンライン);47(3):1110-1117	Original Article
73	Kaeko Sumiyoshi, Yasuyuki Kawagoe, Masanao Ohhashi, et al.	産婦人科	Delayed rhythm formation of normal-structured, growth-restricted fetuses using fetal heart rate monitoring patterns.	J Obstet Gynaecol Res.2020 Aug;46(8):1342-1348	Original Article
74	Masatoki Kaneko, Masanao Ohhashi, Yoshinori Fujii, et al.	産婦人科	A multiple regression model for predicting a high cytomegalovirus immunoglobulin G avidity level in pregnant women with IgM positivity.	Int J Infect Dis.2020 Nov;100:1-6	Original Article

75	Masatoki Kaneko, Minako Ichida, Yoshinori Fujii, et al.	産婦人科	Differences in levels of rubella hemagglutination inhibition antibody titers according to birth cohort.	J Infect Chemother.2021 Mar;27(3):434-438	Original Article
76	Midori Fujisaki, Seishi Furukawa, Hiroshi Sameshima.	産婦人科	Twin amniotic fluid discordance below 26 weeks of gestation for predicting adverse outcomes.	Clin. Exp. Obstet. Gynecol.2021 Feb;48(1):53-58	Original Article
77	Naoshi Yamada, Yuki Kodama, Tomoko Goto, et al.	産婦人科	A very low birth weight infant with severe red blood cell poly-agglutination: A case report.	J Neonatal Biol.2021 Mar;9(3):287	Case report
78	Seishi Furukawa, L Yang, Hiroshi Sameshima.	産婦人科	Combination of lipopolysaccharide and hypoxia-ischemia attenuates cholinergic anti-inflammatory effect in newborn rat brains.	Clin. Exp. Obstet. Gynecol. 2020 Oct;47(5):736-740	Original Article
79	Yasuyuki Kawagoe, Midori Fujisaki, Tomoko Goto, et al.	産婦人科	Metastatic ovarian tumor of vulvar malignant melanoma in a 43-year-old woman: A case report and literature review.	Open J Obstet Gynecol.2021 Jan;11:1-11	Case report

80	Yoshihito Kadota, Toshinori Hirai, Minako Azuma, et al.	放射線科	Differentiation between glioblastoma and solitary brain metastasis using neurite orientation dispersion and density imaging.	J Neuroradiol.2020 May;47(3):197-202	Original Article
81	Kiyotaka Saito, Kiyotaka Yokogami, Kazunari Maekawa, et al.	脳神経外科	High-resolution melting effectively pre-screens for TP53 mutations before direct sequencing in patients with diffuse glioma.	Hum Cell.2021 Mar;34(2):644-653	Original Article
82	Hiroyasu Kiyomiya, Shinnosuke Nogami, Daigo Yoshiga, et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Dento-alveolar reconstruction using titanium mesh and bone grafting followed by dental implants placement for malunion and malocclusion after a maxillo-mandibular fracture.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.2020 Sep;32(5):370-376	Case report
83	Junta Nasu, Tomofumi Uto, Tomohiro Fukaya, et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Pivotal role of the carbohydrate recognition domain in self-interaction of CLEC4A to elicit the ITIM-mediated inhibitory function in murine conventional dendritic cells in vitro.	Int Immunol.2020 Oct;32(10):673-682	Original Article
84	Takehito Fukui, Tomohiro Fukaya, Tomofumi Uto, et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Pivotal role of CD103 in the development of psoriasiform dermatitis.	Sci Rep.2020 May;10(1):8371	Original Article

85	Atsushi Yamashita, Kensaku Nishihira, Toshihiro Gi, et al.	病理診断科	Pathological Features of Ruptured Coronary Plaque and Thrombus Interfaces: Fibrin and von Willebrand Factor as Platelet Scaffolds on Rupture Sites.	Thromb Haemost.2021 Feb;121(2):234-241	Original Article
86	Kazunari Maekawa, Takako Tokumitsu, Eiko Minematsu, et al.	病理診断科	Cervical lymph node metastasis of ovarian dysgerminoma: A case report with fine needle aspiration cytology.	Diagn Cytopathol.2020 Apr;48(4):356-359	Case report
87	Makiko Kawaguchi, Koji Yamamoto, Hiroaki Kataoka, et al.	病理診断科	Protease-activated receptor-2 accelerates intestinal tumor formation through activation of nuclear factor- $\kappa$ B signaling and tumor angiogenesis in Apc Min/+ mice.	Cancer Sci.2020 Apr(オンライン);111(4):1193-1202	Original Article
88	Toshihiro Gi, Yasuyoshi Kuroiwa, Atsushi Yamashita, et al.	病理診断科	High Signal Intensity on Diffusion-Weighted Images Reflects Acute Phase of Deep Vein Thrombus.	Thromb Haemost.2020 Oct;120(10):1463-1473	Original Article
89	Tsuyoshi Fukushima, Takashi Ueda, Junko Hirato, et al.	病理診断科	RELA fusion-positive ependymoma accompanied by extensive desmoplasia: a case report.	Brain Tumor Pathol.2020 Oct;37(4):159-164	Case report

90	Yuichiro Sato, Murasaki Aman, Kazunari Maekawa, et al.	病理診断科	Pathologically diagnosed superficial form of placenta accreta: a comparative analysis with invasive form and asymptomatic muscular adhesion.	Virchows Arch.2020 Jul;477(1):65-71	Original Article
91	Yujiro Asada, Atsushi Yamashita, Yuichiro Sato, et al.	病理診断科	Pathophysiology of atherothrombosis: Mechanisms of thrombus formation on disrupted atherosclerotic plaques.	Pathol Int.2020 Jun;70(6):309-322	Review
92	Shigeaki Miyazaki, Go Yamako, Koji Totoribe, et al.	リハビリテーション部	Shadow pitching deviates ball release position: kinematic analysis in high school baseball pitchers.	BMC Sports Sci Med Rehabil.2021 Mar;13(1):26	Original Article
93	Hidenobu Ochiai, Tomohiro Abe, Hironobu Okuyama, et al.	救急科	Factors associated with the progression of traumatic intracranial hematoma during interventional radiology to establish hemostasis of extracranial hemorrhagic injury in severe multiple trauma patients.	Acute Med Surg.2020 Oct (オンライン);7(1):e580	Original Article
94	Hidenobu Ochiai, Hajime Ohta, Katsuhiko Kanemaru, et al.	救急科	Implementation of a telestroke system for general physicians without a nearby stroke center to shorten the time to intravenous thrombolysis for acute cerebral infarction.	Acute Med Surg.2020 Aug (オンライン);7(1):e551	Original Article

95	Takatoshi Koroki, Takuya Kuroki, Tomohiro Abe, et al.	救急科	Successful covered stent-graft treatment of superficial femoral arterial injury due to blunt trauma.	Acute Med Surg.2021 Mar (オンライン);8(1):e639	Case report
96	Tomohiro Abe, Keisuke Kubo, Shintaro Izumoto, et al.	救急科	Complement Activation in Human Sepsis is Related to Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation.	Shock.2020 Aug;54(2):198-204	Original Article
97	Ayumu Hosokawa, Kentaro Yamazaki, Chu Matsuda, et al.	臨床腫瘍科	Morphologic response to chemotherapy containing bevacizumab in patients with colorectal liver metastases: A post hoc analysis of the WJOG4407G phase III study.	Medicine (Baltimore).2020 Sep;99(36):e22060	Original Article
98	Hiroki Furuhata, Kenji Araki, Taisuke Ogawa.	病院IR部	Causation between Pathway Completion and Reduced Hospital Stay in Patients with Lung Cancer: a Retrospective Cohort Study Using Propensity Score Matching.	J Med Syst.2020 Apr;44(6):105	Original Article
99	Hiroki Furuhata, Kenji Araki, Taisuke Ogawa.	病院IR部	Event Surrogate from Clinical Pathway Completion to Daily Meal for Availability Extension Using Standard Electronic Medical Records: a Retrospective Cohort Study.	J Med Syst.2021 Feb;45(3):33	Original Article



100	Ryosuke Matsuo, Tomoyoshi Yamazaki, Muneou Suzuki, et al.	病院IR部	A random forest algorithm-based approach to capture latent decision variables and their cutoff values.	J Biomed Inform.2020 Oct;110:103548	Original Article
101	Naoki Yoshikawa, Ai Yamada, Tsubasa Yokota, et al.	薬剤部	Measurement of methotrexate in human cerebrospinal fluid using a chemiluminescence immunoassay intended for serum and plasma matrices.	J Clin Lab Anal.2021 Mar (オンライン);35(3):e23661	Original Article
102	Naoki Yoshikawa, Tsubasa Yokota, Ayako Matsuo, et al.	薬剤部	Role of FK506 Binding Protein on Tacrolimus Distribution in Red Blood Cells.	Pharm Res.2020 Jul;37(7):143	Original Article
103	Naoki Yoshikawa, Shintaro Fumoto, Keiko Yoshikawa, et al.	薬剤部	Interaction of Lipoplex with Albumin Enhances Gene Expression in Hepatitis Mice.	Pharmaceutics.2020 Apr;12(4):341	Original Article
104	Tsubasa Yokota, Naoki Yoshikawa, Kazuhiko Arimori, et al.	薬剤部	Retrospective analysis of risk factors for liposomal amphotericin B-associated nephrotoxicity.	Pharmazie.2020 Nov;75(11):599-601	Original Article

計104件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、研究計画書の書き方等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的で開催している。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	83人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
海北 幸一	循環器内科 ・腎臓内科	教授	30年	
下田 和哉	肝臓内科 ・血液内科	教授	33年	
宮崎 泰可	呼吸器内科 ・膠原病・感染症 内科 ・脳神経内科	教授	23年	
河上 洋	消化器内科	教授	25年	
石田 康	精神科	教授	35年	
盛武 浩	小児科	教授	27年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	32年	
池田 拓人	消化管・内分泌・ 小児外科	講師	28年	
中目 和彦	小児外科	講師	25年	
古川 貢之	心臓血管外科	教授	26年	
富田 雅樹	呼吸器・乳腺外 科	准教授	32年	
伊東 大	形成外科	准教授	26年	
坂本 武郎	整形外科	教授	29年	
天野 正宏	皮膚科	教授	34年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	33年	
池田 康博	眼科	教授	26年	
東野 哲也	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	39年	
桂木 真司	産科・婦人科	教授	26年	
東 美菜子	放射線科	教授	13年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	29年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	37年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	27年	
浅田 祐士郎	病理診断科	教授	39年	

細川 歩	臨床腫瘍科	准教授	26年	
落合 秀信	救急科	教授	32年	
荒川 英樹	リハビリテーション科	教授	23年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 1) N S T 院内勉強会 「がんと栄養」 2) N S T 院内勉強会 「栄養管理のUP TO DATE」 3) 医療安全管理・感染対策講演会 4) 医療安全管理に関する追加職員研修 ・研修の期間・実施回数 1) 1 回：令和 2 年 9 月 29 日 2) 1 回：令和 3 年 3 月 9 日 3) 4 回 4) 2 回 ・研修の参加人数 1) 29 名 2) 37 名 3) 延べ 1, 248 名 4) 延べ 2, 497 名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施

行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	新卒者のリフレッシュ研修	情報交換と意見交換	看護師	43名	グループワーク	1回
看護部	既卒者のリフレッシュ研修	情報交換と意見交換	看護師	2名	グループワーク	1回
看護部	新卒者研修 ～看護体験を語ろう！～	①看護体験の共有 ②KJ法手法を用いて看護体験の振り返り ③看護チームの一員として、明日から取り組むべきことを挙げる	看護師	42名	グループワーク	1回
看護部	新卒者研修 -チーム医療の一員として、2年目に向けての課題を見つけよう-	情報交換と意見交換	看護師	41名	グループワーク 事前レポート	1回
看護部	看護管理者研修	①概念化スキルを用いた問題解決 ②概念化スキルを用いたスタッフ育成	看護師長 副看護師長の希望者	70名	講義 演習	2回
看護部	新任副看護師長研修	①看護部の組織と概要 ②部署の組織と運営、目標管理 ③「副看護師長の職務規程」等	看護師	1名	講義	1回
看護部	新任看護師長研修	①看護部の組織と概要 ②部署の組織と運営、目標管理 ③「看護師長の職務規程」 職務規程 労務管理 人事管理 教育 安全管理 物品管理 情報管理 経営 等	看護師	1名	講義	1回
看護部	静脈注射 (初級編)	①薬の作用、副作用について ②感染・針刺し事故防止 ③解剖学(安全な部位) ④留置針による血管確保 ⑤静脈注射の院内取り決めについて ⑥血管穿刺の実際 ・シュミレーターを用いた演習 ・受講者同士での演習(新卒者のみ)	看護師	①新卒者17名 既卒者2名 ②③ 新卒者27名	講義 演習 静脈注射実施前に知識レベル評価	3回
看護部	静脈注射 (中級麻薬編)	①麻薬の作用 ②疼痛コントロール ③麻薬のシリンジポンプ投与方法の注意点 ④PCAポンプの操作	看護師	1回目 44名 2回目 26名 計70名	講義 演習	2回
看護部	静脈注射 (抗がん薬編)	①曝露対策合同ガイドラインについて ②血管外漏出対策について ③抗がん薬の作用と急性期の副作用 ④投与管理の実際について	看護師	1回目 48名 2回目 20名 計68名	講義 演習	2回
看護部	医療安全のための基礎技術	①患者確認・指示確認 内服薬・麻薬、注射薬 ②転倒・転落防止 ③移動介助、患者移送 ④注射準備 ⑤輸液ポンプ ⑥シリンジポンプ	看護師	47名	講義 演習	1回
看護部	看護倫理 I	①臨床における看護倫理とは ②看護者の倫理綱領 ③看護職の役割と責務 ・主に人権やプライバシー、質改善に関する47項目	看護師	46名	講義	1
看護部	看護記録 I	①看護記録の目的・法的位置づけ ②看護記録の倫理的配慮、カルテ開示について ③当院の看護記録の記載方法 ④電子カルテの使い方	看護師	47名	講義	1回
看護部	看護過程	事例を用いた看護過程の展開	看護師	49名	講義 グループワーク ・事前課題	1回
看護部	フィジカルアセスメント1	①バイタルサインとは ②ABCDEアプローチとバイタルサイン	看護師	47名	講義	1回
看護部	看護技術 呼吸ケア 褥瘡予防ケア	基礎技術 ①褥瘡予防 ②安楽な体位 ③呼吸ケア	看護師	47名	講義 演習	1回
看護部	心電図	①解剖学的知識と心電図のつながり ②心電図の読み方 ③アラーム、不整脈対応 ④心電図のモニタリング	看護師	47名	講義	1回



実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	体液バランス	①体液バランス ・体液管理に必要な基礎知識	看護師	49名	講義	1回
看護部	救急蘇生 (BLS, AED, 気管挿管) 各部署で実施	①急変時の対応 ・救命救急処置	看護師	49名	講義 演習	1回
看護部	事例検討Ⅰ	実践した看護場面の振り返り	看護師	49名	演習	1回
看護部	メンバーシップ研修	①チームってなんだろう ②メンバーに求められていることは? ③先輩・上司・同僚とうまくつきあおう ④組織(職場)に溶け込むために	看護師	49名	講義 グループワーク ・事前課題	2
看護部	プリセプター研修	①「きわみファイル」の活用について ②プリセプターの役割 ③新人の特性 ④新人看護師の成長支援 ⑤効果的な関わり方のコツ	看護師	39名	講義 グループワーク	1回
看護部	看護倫理Ⅱ	Jonsenの分析とその活用について	看護師	41名	講義 グループワーク	1回
看護部	看護記録Ⅱ	事例を用いた看護記録 ①標準看護計画 ②看護問題 ③経過記録	看護師	① 48名 ② 31名 計79名	講義 演習 事前課題	2
看護部	事例検討Ⅱ	事例のアセスメントを行い、患者・家族の個性似あわせた看護実践の事例をまとめる	看護師	29名	演習	1回
看護部	フィジカルアセスメントⅡ	事例を用いて学ぶ ①臨床推論 ②呼吸と循環のフィジカルアセスメント ③早期離床の目的と方法	看護師	46名	講義 演習	1回
看護部	リーダーシップ研修(入門編)	①リーダーとリーダーシップの違い ②こんなときどうする? ③あこがれのリーダー ④日勤リーダーの心構え	看護師	55名	講義 ロールプレイ	1回
看護部	☆豊かな看護のためのリフレクション	①リフレクションのあり方 ②リフレクションが応用できる場面 ③リフレクション演習	看護師	26名	講義 ・事前課題(リフレクティブジャーナル)	1回
看護部	☆臨地実習指導者研修	①臨地実習の概要と学生の傾向について ②臨地実習指導者の役割について ③指導方法について	看護師	40名	講義	1回
看護部	☆臨地実習指導者研修	①臨地実習の概要と学生の傾向について ②臨地実習指導者の役割について ③指導方法について	看護師	23名	講義	1回
看護部	☆問題解決	④実習場面の事例のグループワーク	看護師	20名	グループワーク 事前課題	1回
看護部	☆問題解決	①リーダーシップ理論 ②問題解決技法 ③ロジカルシンキング ④部署の取り組みについてグループワーク	看護師	16名	講義 グループワーク ・事前課題(課題背景)	1回
看護部	★実践!抗がん薬の投与管理	外来化学療法室での実習 ①血管のアセスメント ②血管確保 ③抗がん薬の血管外漏出時の対策 ④抗がん薬投与中の管理	看護師	54名	実習 事前課題	1回
看護部	★実践!入退院支援(院内編)	患者支援センターで行う主な実習 ①入院前の情報収集、スクリーニング ②スクリーニング評価 ③入院前カンファレンスへの参加 ④退院前カンファレンスへの参加 ⑤病棟での退院支援カンファレンスへの参加 ⑥地域とのカンファレンスへの参加	看護師	23名	実習 事前課題	1回
看護部	★実践!入退院支援(院外編)	訪問看護師に同行訪問 ①対象者の状態をアセスメント ②ケアを一緒に実施する ③利用しているサービスについて ④他職種との連携	看護師		実習 事前課題	
看護部	★【院内認定看護師:フォローアップ研修】 ・スキンケア	①WOC領域の最新の情報 ②事例検討	看護師	32名	実習 事前課題	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	★【院内認定看護師：フォローアップ研修】 ・重症集中ケア ・クリティカルケア	①集中ケア、クリティカルケア領域の最新の情報 ②事例検討	看護師	25名	講義 グループワーク	1回
看護部	★【院内認定看護師：フォローアップ研修】インフェクションコントロール(IC)	①IC領域の最新の情報 ②事例検討	看護師	10名	講義 グループワーク	1回
看護部	★【院内認定看護師：フォローアップ研修】 ・呼吸ケア ・呼吸理学療法	①呼吸ケア領域の最新の情報 ②事例検討 ※呼吸介助	看護師	46名	講義 グループワーク	1回
看護部	アドバンス・ケア・プランニング (ACP) のコツ	①人生の最終段階に向けた患者の意思決定を共有する ②アドバンスケアプランニングとは ③患者に合わせたアドバンスケアプランニングのコツ	看護師	54名	e-ラーニング 講義	1回
看護部	救急看護	①急変対応のポイント ②急変対応の基本 ③一次救命処置、二次救命処置	看護師	41名	講義	1回
看護部	患者さんの「食べたい」を支えるケア	①摂食嚥下障害とは ②誤嚥性肺炎とは ③食事介助方法 ④増粘剤の使用法	看護師		講義	
看護部	認知症の人とのコミュニケーション	①コミュニケーションとは ②認知症の人のコミュニケーションの特徴 ③認知症の人とのコミュニケーションのポイント	看護師	56名	講義	1回
看護部	英語研修	①アドバンスコース ②ベーシックコース	看護師	延べ100名	講義	12回
看護部	看護研究発表	看護研究の発表	看護師	前期：59名 後期：68名	発表会	2回
看護部	ナースングアシスタント (NA) オリエンテーション	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	看護補助者 (ナースングアシスタント：NA)	8名	講義 演習	10回
看護部	看護補助者研修 知識編・技術編	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	看護補助者 (派遣) 研修	149名	講義 演習	8回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
リハビリテーション部	定期勉強会	2020/4/15 変形性膝関節症に対する治療戦略 2020/5/13 肩関節障害に対する機能解剖学的な運動療法 2020/6/17 心電図勉強会（応用編） 2020/7/15 新生児センター勉強会 2020/8/19 リハビリテーション栄養とサルコペニア 2020/9/16 第14回群馬CPセミナー 2020/10/14 2020年10月勉強会資料 2020/11/18 呼吸機能検査の呼吸療法への応用 2020/12/16 ARDSの腹臥位療法 2021/1/13 ニューロリハビリテーション「脳神経系と運動」 2021/2/17 高次脳機能障害と社会制度 2021/3/17 高次脳機能障害とは	理学療法士・ 作業療法士・ 言語聴覚士	25名	勉強会形式	年12回
リハビリテーション部	高次脳機能障害勉強会	4月：文献抄読（高次脳機能障害に対する評価） 5月：文献抄読（覚醒下腫瘍摘出術と機能評価） 6月：文献抄読（復学に向けた社会制度、評価についての検討） 7月：症例検討（脳腫瘍術後の失語症に対する治療プログラムの立案について） 8月：症例検討（失語症患者の評価と訓練プログラムについて） 9月：英語論文報告（ICU-ADについて急性期におけるせん妄評価） 10月：文献抄読（高次脳機能障害と社会制度） 11月：文献抄読（TMTにおける小児の評価） 12月：文献抄読、症例検討（AD患者における語の流暢性について） 1月：症例検討（復学に関する評価、治療プログラムの検討） 2月：症例検討（左USN患者の評価と訓練立案についての検討） 3月：英語論文報告（脳腫瘍の予後は術前の年齢や身体機能に左右される）	作業療法士 言語聴覚士	作業療法士 言語聴覚士 (7名)	文献抄読 症例検討	年12回
リハビリテーション部	作業療法士勉強会	(R2.4.14)MTDLPアプリケーション研修会の伝達 (R2.5.12)色彩の認識について (R2.6.9)急変時の対応について (R2.7.14)事例検討(荷重を怖がる事例) (R2.8.11)脳内身体表現の変容機構の理解と制御 (R2.9.8)作業療法の視点で支える下部尿路機能障害 (R2.10.13)繊維筋痛症について (R2.11.10)落書きと脳血流 (R2.12.8)腰痛と上部体幹について (R3.1.12)事例検討(離礁が進めない事例) (R3.2.9)ペインリハビリテーションについて (R3.3.13)シングルケースデザインによる研究	作業療法士	作業療法士 全員(6名)	論文・解説や個人作成資料を基にした講義形式	12回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
リハビリテーション部	理学療法士勉強会	5月：文献抄読（内部障害リハビリテーションの現状と展望） 6月：文献抄読（変形性膝関節症の理学療法における足底挿板の活用） 7月：文献抄読（理学療法における評価の考え方と進め方） 8月：文献抄読（体位と呼吸管理） 9月：文献抄読（骨盤の運動性と下肢運動連鎖） 10月：文献抄読（脳卒中片麻痺患者の起立・歩行改善のための理学療法アプローチ） 11月：文献抄読（心疾患患者に最適な運動様式：運動強度・運動時間・運動様式） 2月：文献抄読（筋性腰痛） 3月：脳卒中重度片麻痺者の歩行再建をめざした急性期の理学療法	理学療法士	理学療法士全員(16名)	講義形式	9回
リハビリテーション部	言語聴覚療法士勉強会	R2.04.23 症例検討（口蓋裂術後の鼻咽腔閉鎖機能障害について） R2.05.21 症例検討（反回神経麻痺の音声障害について） R2.06.17 症例検討（脳症後の小児の言語・摂食嚥下訓練について） R2.07.16 症例検討（熱傷後の摂食嚥下障害について） R2.08.19 症例検討（運動障害性構音障害の音声特徴について～AMSDの音声を用いて～） R2.09.17 文献抄読（COVID-19に対するSTの摂食嚥下機能評価・訓練について） R2.10.21 症例検討（救命救急センターにおける急性期のSTの介入意義） R2.11.19 症例検討（重症筋無力症における摂食嚥下訓練、救命救急センターにおけるSTの介入意義） R3.01.28 症例検討（言語機能温存のため覚醒下手術が行われた左側頭葉神経腫瘍の1例） R3.02.24 症例検討（重度心身障害者における食事場面における姿勢調整について） R3.03.18 症例検討（入退院を繰り返した脳症後の小児の言語・摂食嚥下機能評価・訓練経過）	言語聴覚士	言語聴覚士全員(5名)	講義形式	11回
放射線部	診療放射線技師業務研修	ストレス撮影器具（テロス）の使い方	診療放射線技師	11名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	CT撮影パラメータについて	診療放射線技師	13名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	PET-CTを用いた治療計画の手順	診療放射線技師	13名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	MRIの緊急消磁方法と注意点について	診療放射線技師	9名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	ポータブル装置の操作と機能について	診療放射線技師	12名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	一般撮影装置の操作と機能について	診療放射線技師	11名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	トモシンセシス撮影の方法	診療放射線技師	10名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	心臓カテーテル装置の操作と機能について	診療放射線技師	11名	講義及び実技	1回
病理部	口腔細胞診ワークショップ（バーチャルスライド実習、オンライン講演）		臨床検査技師	45名	バーチャルスライド実習及びオンライン講演	1回

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 帖佐 悦男
管理担当者氏名	山里 善彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び 各診療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。</li> <li>エックス線写真は電子媒体に保存</li> <li>診療録等を本院外に持ち出さない</li> </ul>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	電子媒体で保存
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療安全管理マニュアル内保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	・電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・調剤室、製剤室、薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病院IR部	・電子媒体（病院IR部フォルダ内）保存及び病院IR部内鍵付きキャビネットに保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病院IR部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	帖佐 悦男	
閲覧担当者氏名	山里 善彦	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none"><li>・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。</li><li>・外部者については、特に定めていない。</li></ul>		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理体制</li> <li>3. 職員研修・教育</li> <li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応</li> <li>6. 深刻な感染症事例発生時の対応</li> <li>7. 患者等との情報の共有</li> <li>8. 患者からの相談の対応</li> <li>9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。</li> <li>2. 医療安全管理マニュアルに関する事。</li> <li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。</li> <li>4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。</li> <li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。</li> <li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。</li> <li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。</li> <li>8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。</li> <li>9. 医療安全管理部の業務に関する事。</li> <li>10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>12. 医療放射線に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>13. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年17回
<p>研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する講演会（4回）               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 「SNSをめぐる個人情報保護」「SNSをめぐる情報モラル」「臨床研究指針違反について」</li> <li>第2回 「医療放射線の安全管理について」</li> <li>第3回 「新型コロナウイルス感染症について一新たに気づいたことー」</li> <li>第4回 「ジェネリック医薬品と医薬品の名称に関して」</li> </ul> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（9回）</li> <li>3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 新規採用者研修（2回）（開催1回、会議室等での上映1回）</li> <li>5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回）</li> </ol>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、</li> </ol> </li> </ul>	

事例報告等

2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知
3. 作業標準の作成
4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し
5. 院内ラウンド
6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告
7. 院内全死亡例についての検証

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li> <li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染の予防に関すること。</li> <li>2. 感染の情報の収集に関すること。</li> <li>3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。</li> <li>4. 防疫対策の確立に関すること。</li> <li>5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年16回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理・感染対策に関する講演会（4回）                   <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 「抗菌薬適正使用に関する最近の話題」</li> <li>第2回 「新型コロナウイルス感染症について」</li> <li>第3回 「新型コロナウイルス感染症について－新たに気づいたこと－」</li> <li>第4回 「当院における感染対策2020」</li> </ul> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（9回）</li> <li>3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 各部署との勉強会（1回）                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PPE着脱の説明会</li> <li>希望をとり、各部署で開催</li> </ul> </li> <li>5. 新規採用者研修（1回）</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、CIC/ICT/ASTでの検討、現場へのフィードバックを行う。</li> <li>2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が医療支援課・CIC/ICT/ASTへ報告する。CIC/ICT/ASTは当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を</li> </ol> </li> </ul>	

講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。

3. CIC/ICT/ASTによる定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策の推進を図る。
4. 新型コロナウイルス感染の流行により、感染患者の受け入れ体制の整備、対応マニュアルの作成、周知、PPE着脱訓練などの活動を行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回医療安全管理・感染対策講演会 「抗菌薬適正使用に関する最近の話題」</li> <li>2. 第4回医療安全管理・感染対策講習会 「ジェネリック医薬品と医薬品の名称に関して」</li> <li>3. リスクマネージャー会議 アドバンスドセミナー 医薬品の安全使用</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用</li> <li>2. 医薬品の購入</li> <li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li> <li>4. 部署における麻薬の運用</li> <li>5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>6. 病棟における医薬品の管理</li> <li>7. 外来における医薬品の管理</li> <li>8. 手術部の医薬品管理</li> <li>9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い(収集、提供等)に関する事項</li> <li>10. 救急部門・集中治療室・総合周産期母子医療センター</li> <li>11. 輸血・血液管理部門</li> <li>12. 生命維持管理装置領域</li> <li>13. 臨床検査部門</li> <li>14. 画像診断部門</li> <li>15. 他施設との連携</li> <li>16. 事故発生時の対応</li> <li>17. 教育・研修に関する事項</li> <li>18. 薬剤部部門</li> </ol> <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：院内製剤</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</li> <li>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</li> <li>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</li> <li>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li> <li>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</li> <li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li> <li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> <li>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格（医師）</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する文言を明記している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている。</li> </ul> </li> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</li> </ul> </li> <li>・担当者の指名の有無（有）</li> <li>・担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> <li>（所属：薬剤部，職種 薬剤師） （所属： ， 職種 ）</li> <li>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</li> <li>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</li> <li>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</li> <li>・インフォームドコンセントに関する基本方針に実施すべき基本事項を定め、インフォームドコンセントマニュアルに医療行為をリスク分類した共通様式での医師の説明記録への記載、文書による説明同意書使用、看護師同席の基準を定義している。</li> </ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： システムによる一次監査、多職種委員による評価シートを用いた二次監査を毎月実施し、職員全体に周知指導を実施している。インフォームドコンセント時の「説明同意書」について電子カルテに登録済「説明同意書」を診療科での見直しを依頼し、委員による後ろ向き審査を全て完了した。</p> <p>・指導内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療録記載率向上と適正な記載記録の促進</li> <li>2. インフォームドコンセント、説明同意書について共通様式での標準化記載</li> <li>3. 侵襲を伴う医療行為の本人家族への説明を共通様式「説明記録」に記録することを周知する。</li> </ol>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（ ）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。</li> <li>2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li> <li>4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>5. 患者からの医療に係る相談に関すること。</li> <li>6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 (入院患者の全死亡例報告の検証を含む)</li> <li>7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。</li> <li>8. 医療安全のための教育・研修に関すること。</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルに関すること。</li> <li>10. 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。</li> <li>11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。</li> <li>12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。</li> <li>13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。</li> </ol> <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（4件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</p>	



- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 

前年度、診療科から5件の申請を受け、高難度新規医療技術評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ、提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 

前年度、診療科からの申請が0件であったため、評価委員会は開催されなかった。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年247件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年86件（3b以上）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 

入院患者の院内死亡事例については、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。

特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（3b以上）についても同様に、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（無（紙面調査のみ）（病院名：大分大学医学部附属病院））
  - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（無（紙面調査のみ）（病院名：鹿児島大学病院））
- （技術的助言の実施状況）  
指摘等特になし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の内容（すべて）：

1. 医療安全管理に関する講演会（4回）  
第1回、第2回、第3回、第4回
2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（9回）
3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）
4. 新規採用者研修（2回）（開催1回、会議室等での上映1回）
5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

2020年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医療安全管理責任者：

2020年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医薬品安全管理責任者：

2020年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

医療機器安全管理責任者

2020年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価

主たる機能：一般病院2

機能種別版評価項目 3rdG：Ver. 1.1

認定期間：2018年2月17日～2023年2月16日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院のホームページに、認定情報及び結果の公表を行った。（改善要望事項なし）

・評価を踏まえ講じた措置

改善要望事項はなかったが、評価によって明らかになった課題等の解消のため、人員の増員を始めとし継続した改善への取り組みを行い、病院サービスの質の向上に努めている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師免許を有している者</li> <li>2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。</li> <li>3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。</li> <li>4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有）</li> <li>・ 公表の方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学ホームページに公開している。</li> </ul> </li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議</li>   <li>・審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している</li>   <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有）</li> <li>・公表の方法 大学ホームページに掲載</li>   <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（無）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
帖佐 悦男	○	医師	病院長
海北 幸一		医師	循環器内科科長
菊池 正雄		医師	腎臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	脳神経内科科長
宮崎 泰可		医師	呼吸器内科科長
山口 秀樹		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
梅北 邦彦		医師	膠原病・感染症内科科 長
河上 洋		医師	消化器内科科長
石田 康		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
池田 拓人		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
古川 貢之		医師	心臓血管外科科長
富田 雅樹		医師	呼吸器・乳腺外科科長
伊東 大		医師	形成外科科長

坂本 武郎		医師	整形外科科長
天野 正宏		医師	皮膚科科長
賀本 敏行		医師	泌尿器科科長
池田 康博		医師	眼科科長
東野 哲也		医師	耳鼻咽喉科科長
桂木 真司		医師	産科婦人科科長
東 美菜子		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
竹島 秀雄		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯 科科長
荒川 英樹		医師	リハビリテーション 科科長
浅田 祐士郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
此元 隆雄		医師	遺伝カウンセリング 部長
細川 歩		医師	がんセンター長
佐藤 勇一郎		医師	病理部長
白阪 哲朗		医師	ME機器センター長
我那覇 章		医師	難聴支援センター長
永田 賢治		医師	肝疾患センター長
高城 一郎		医師	感染制御部長
吉村 学		医師	地域総合医育成セン ター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
榮 建文		教授	IVRセンター長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成 センター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療 センター長
近藤 千博		医師	コミュニティ・メディ カルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副セ ンター長
金氏 毅		医師	周術期口腔ケアセン ター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
龍元 裕貴		事務職	事務部長
陪席			
菱川 善隆		医師	医学部長
水口 麻子		医師	病院長補佐
佐伯 裕二		臨床検査技師	検査部技師長

小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
竹ノ内 博之		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨床工学技士長
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	副薬剤部長
神田 久美子		看護師	医療安全管理部副部長
久保 敦子		看護師	理事補佐
中山 雄貴		看護師	感染制御部副部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
  - ・ 公表の方法  
大学ホームページに掲載
  - ・ 規程の主な内容
    - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
    - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
    - 科長や部長等の任命権限
    - 科長及び副科長の解任権限
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - 副病院長 9名（働き方改革担当、医療安全管理担当、経営企画担当、教育研究担当、女性・若手医師担当、診療担当、地域医療連携担当、看護担当、事務担当）
  - 病院長補佐9名（薬剤部長、総務課長、管理課長、医事課長、医療支援課長、総務医事課長、災害・地域貢献担当、メディカルスタッフ担当、女性医師担当）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
大学で管理者研修を実施している



規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法： 本院ホームページに掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院 安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体就 労支援アストモ ス		医療を受ける者	無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
大学業務の監査、分析に関すること。  
大学業務の指導、改善に関すること。
  
- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）
  
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
  
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）
  
- ・ 公表の方法  
本学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況              予算の作成及び執行並びに決算に関する事項              組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年6回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年6回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</li> <li>・ 公表の方法              本学ホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）</li><li>・ 通報件数（年0件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）</li><li>・ 周知の方法 本院ホームページに掲載</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。</p> <p>診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。</p> <p>手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。</p>	